

中小企業景況調査

令和元年 5 月

能登鹿北商工会

【調査要領】

1. 調査対象

(1)対象地区（10 商工会）

能美市、美川、白山、かほく市、森本、羽咋市、富来、**能登鹿北**、穴水町、能登町

(2)対象企業数 180 企業

(3)回答企業数 180 企業（回答率 100.0%）

2. 調査対象期間

平成 31 年 1 月～3 月期を対象とし、調査時点は、平成 31 年 3 月 1 日とした。

今期の状況は、今期（31/1-3）と前年同期（30/1-3）を比べた。

3. 調査方法

(1)商工会の経営指導員による訪問面接調査。

(2)調査対象企業の抽出は、業種・規模等有意抽出法による。

4. 回答企業数内訳

	調査対象		回 答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	40	22.2%	40	22.2%
建設業	20	11.1%	20	11.1%
小売業	51	28.3%	51	28.3%
サービス業	69	38.3%	69	38.3%
合 計	180	100.0%	180	100.0%

5. D I とは

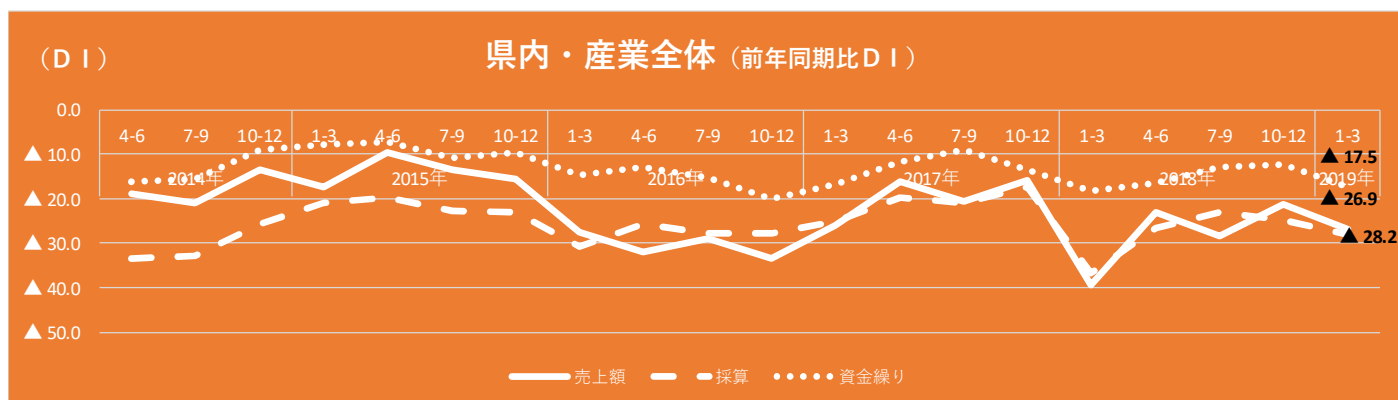
この報告書の中で「D I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気）動向指数の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を示す指標です。

《産業全体》

売上、採算、資金繰りはいずれも悪化

平成 30 年度第 4・四半期（平成 31 年 1 月～3 月期）の産業全体の動向では、前年同期比（以下、各指標とも同じ）の売上額 D I は、△26.9 で前期比 5.7 ポイント、採算 D I は、△28.2 で前期比 3.5 ポイント、資金繰り D I は、△17.5 で前期比 5.2 ポイント。いずれも悪化となりました。

業種別で見ると、売上額 D I、採算 D I は建設業、サービス業は改善、製造業、小売業は悪化となりました。また資金繰り D I は、いずれの業種とも悪化となりました。

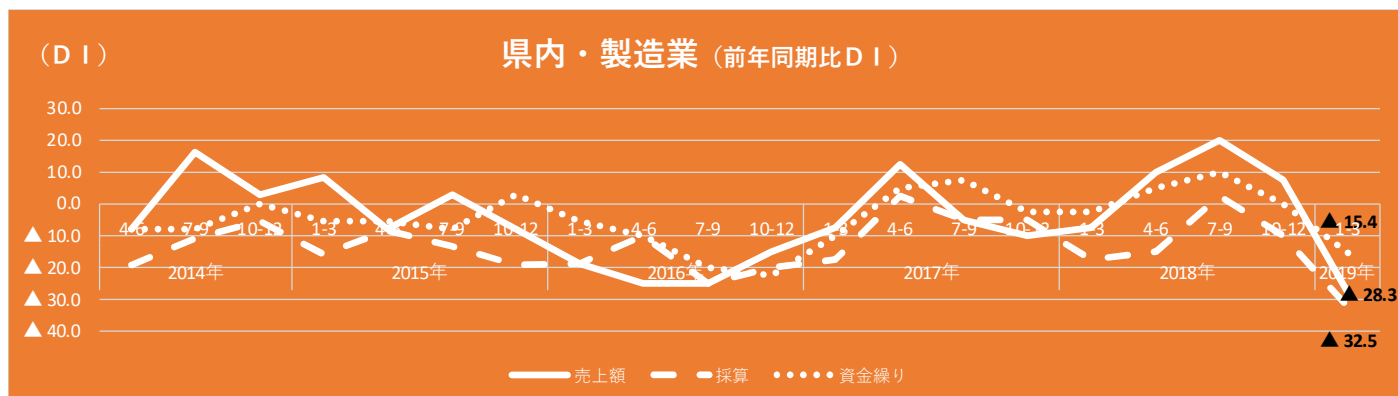


	2014年			2015年				2016年				2017年				2018年				2019年
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
売上高	△ 19.0	△ 21.1	△ 13.4	△ 17.4	△ 9.5	△ 13.4	△ 15.5	△ 27.4	△ 31.9	△ 29.0	△ 33.5	△ 26.1	△ 16.2	△ 20.6	△ 15.8	△ 39.4	△ 23.1	△ 28.5	△ 21.2	△ 26.9
採算	△ 33.5	△ 32.9	△ 25.6	△ 21.1	△ 19.7	△ 22.7	△ 23.0	△ 30.9	△ 25.7	△ 27.7	△ 27.8	△ 25.0	△ 19.7	△ 20.9	△ 17.4	△ 36.6	△ 26.5	△ 22.9	△ 24.7	△ 28.2
資金繰り	△ 16.1	△ 15.7	△ 9.1	△ 7.9	△ 7.3	△ 10.7	△ 9.6	△ 14.8	△ 12.9	△ 15.3	△ 20.0	△ 16.8	△ 11.8	△ 9.0	△ 13.4	△ 18.3	△ 16.6	△ 13.0	△ 12.3	△ 17.5

《製造業》

売上額、採算、資金繰りのすべて悪化

製造業の動向では、前年同期比（以下、各指標とも同じ）の売上額 D I は、△28.3 で前期比 35.8 ポイント、採算 D I は、△32.5 で前期比 22.3 ポイント、資金繰り D I は、△15.4 で前期比 15.4 ポイントの悪化となり、全ての D I が悪化しました。

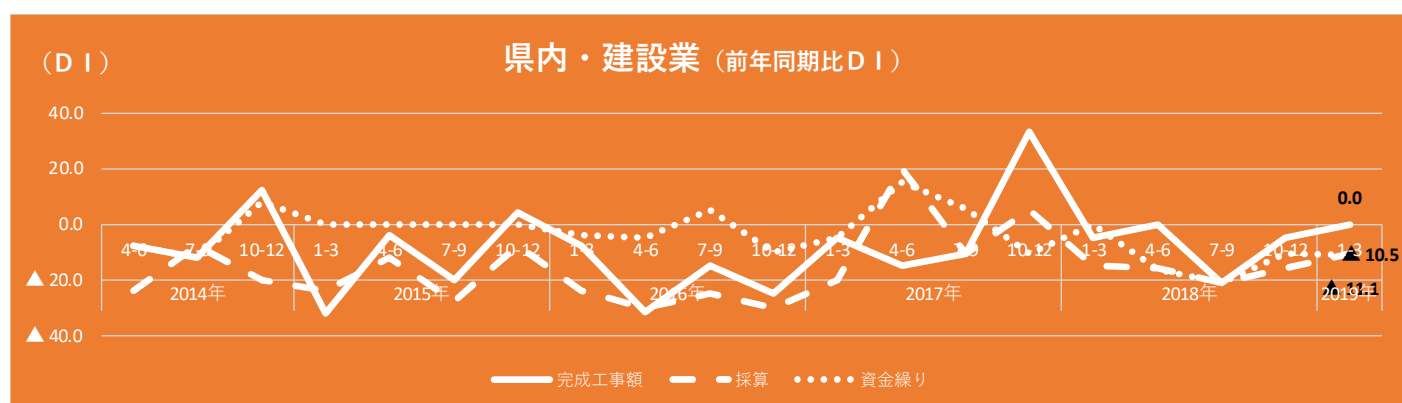


	2014年			2015年				2016年				2017年				2018年				2019年
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
売上高	△ 8.1	16.2	2.7	8.1	△ 8.1	2.7	△ 8.1	△ 18.9	△ 25.0	△ 25.0	△ 15.0	△ 7.5	12.5	△ 5.1	△ 10.0	△ 7.5	10.0	20.0	7.5	△ 28.3
採算	△ 19.5	△ 11.1	△ 5.4	△ 16.2	△ 8.4	△ 13.5	△ 19.5	△ 18.9	△ 10.3	△ 25.0	△ 20.0	△ 17.5	2.5	△ 5.0	△ 5.2	△ 17.5	△ 15.0	2.5	△ 10.2	△ 32.5
資金繰り	△ 8.1	△ 8.1	0.0	△ 5.4	△ 5.4	△ 8.1	2.7	△ 5.5	△ 10.0	△ 20.0	△ 22.5	△ 10.0	5.0	7.5	△ 2.5	△ 2.5	5.0	10.0	0.0	△ 15.4

《建設業》

完成工事額、採算は改善、資金繰りは悪化

建設業の動向では、前年同期比（以下、各指標とも同じ）の完成工事額D Iは、0.0で前期比 5.2 ポイント、採算D Iは、△10.5 で前期比 5.3 ポイント改善しました。資金繰りD Iは、△11.1 で前期比 0.5 ポイントの悪化となりました。



	2014年			2015年				2016年				2017年				2018年				2019年
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
完成工事額	△ 8.0	△ 12.0	12.0	△ 32.0	△ 4.0	△ 20.0	4.0	△ 8.0	△ 31.6	△ 15.0	△ 25.0	△ 5.0	△ 15.0	△ 10.5	33.3	△ 5.0	0.0	△ 21.0	△ 5.2	0.0
採算	△ 24.0	△ 8.0	△ 20.0	△ 24.0	△ 12.0	△ 28.0	△ 8.0	△ 24.0	△ 30.0	△ 25.0	△ 30.0	△ 20.0	20.0	△ 10.5	5.2	△ 15.0	△ 15.8	△ 21.0	△ 15.8	△ 10.6
資金繰り	△ 8.0	△ 12.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△ 4.0	△ 5.0	5.0	△ 10.0	△ 5.0	15.0	5.3	△ 10.5	0.0	△ 16.6	△ 21.1	△ 10.6	△ 11.1

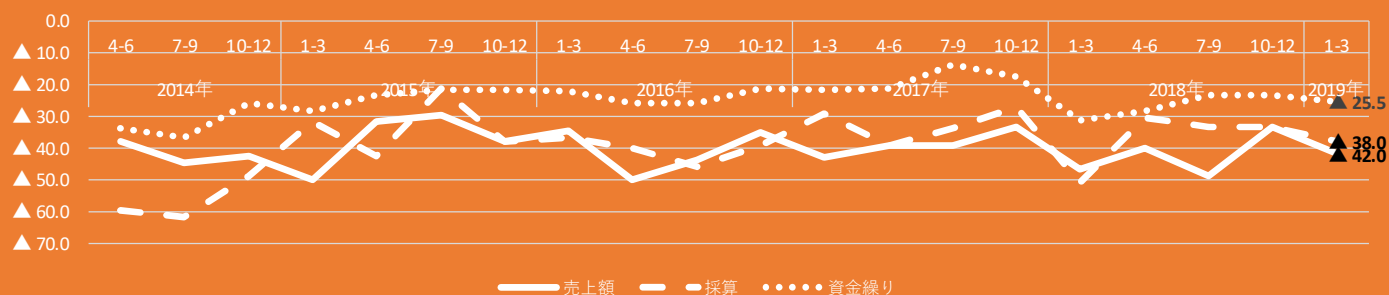
《小売業》

売上、採算、資金繰りのすべて悪化

小売業の動向では、前年同期比（以下、各指標とも同じ）の売上額D Iは、△42.0 で前期比 8.7 ポイント、採算D Iは、△38.0 で前期比 4.7 ポイント、資金繰りD Iは、△25.5 で前期比 2.0 ポイントの悪化となり、全てのD Iが悪化しました。

(D I)

県内・小売業（前年同月比）



	2014年			2015年				2016年				2017年				2018年				2019年
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
売上高	△ 38.3	△ 44.7	△ 42.6	△ 50.0	△ 31.9	△ 29.8	△ 38.3	△ 34.7	△ 50.0	△ 44.0	△ 35.3	△ 43.1	△ 39.2	△ 39.2	△ 33.3	△ 47.0	△ 40.0	△ 49.1	△ 33.3	△ 42.0
採算	△ 59.6	△ 61.7	△ 48.9	△ 32.0	△ 42.5	△ 21.3	△ 38.3	△ 37.0	△ 40.0	△ 46.0	△ 39.2	△ 29.4	△ 39.3	△ 34.0	△ 27.4	△ 51.0	△ 30.6	△ 33.4	△ 33.3	△ 38.0
資金繰り	△ 34.1	△ 36.9	△ 26.1	△ 28.3	△ 23.4	△ 21.7	△ 21.8	△ 22.2	△ 26.0	△ 26.0	△ 21.6	△ 22.0	△ 21.6	△ 14.0	△ 17.7	△ 31.4	△ 28.6	△ 23.6	△ 23.5	△ 25.5

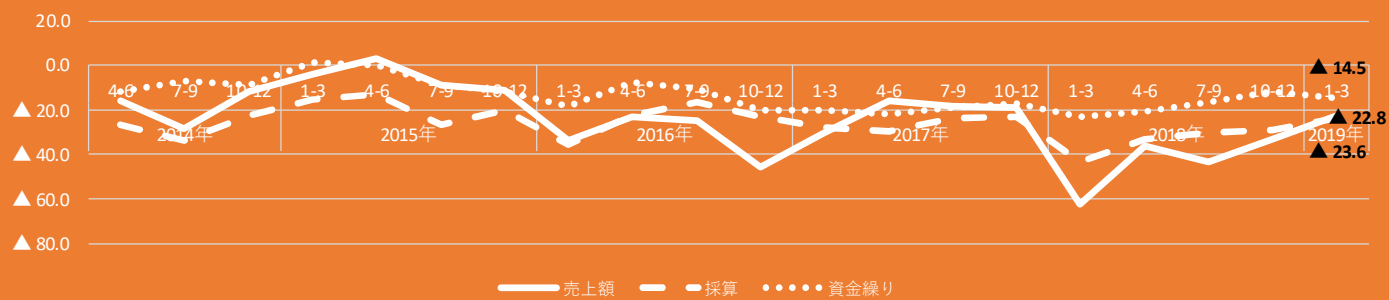
《サービス業》

売上、採算は改善、資金繰りは悪化

サービス業の動向では、前年同期比（以下、各指標とも同じ）の売上額D Iは、△22.8で前期比10.5ポイント、採算D Iは、△23.6で前期比5.4ポイント改善しました。資金繰りD Iは、△14.5で前期比2.9ポイント悪化しました。

(D I)

県内・サービス業（前年同月比）



	2014年			2015年				2016年				2017年				2018年				2019年
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
売上高	△ 15.7	△ 28.2	△ 11.6	△ 4.2	2.9	△ 8.6	△ 11.2	△ 33.8	△ 23.2	△ 24.6	△ 45.6	△ 30.4	△ 16.2	△ 18.2	△ 19.1	△ 62.3	△ 36.3	△ 43.5	△ 33.3	△ 22.8
採算	△ 26.7	△ 33.8	△ 22.5	△ 15.5	△ 12.8	△ 26.7	△ 20.0	△ 35.8	△ 22.7	△ 16.5	△ 23.2	△ 27.6	△ 29.8	△ 23.5	△ 23.2	△ 43.5	△ 33.4	△ 30.4	△ 29.0	△ 23.6
資金繰り	△ 11.7	△ 7.0	△ 8.8	1.4	0.0	△ 8.8	△ 11.6	△ 18.6	△ 7.4	△ 10.4	△ 20.3	△ 20.3	△ 22.0	△ 19.1	△ 17.4	△ 23.2	△ 20.6	△ 16.4	△ 11.6	△ 14.5

自社の業況についてのコメント（能登鹿北関係分）

業種	コメント
製造業	昨年末から、業況が悪化している。中国の景気後退の影響だと思うが、食品機械以外は減産傾向である。
小売業	最近の生活様式から和装がめっきり少なくなってきた。また、店舗への来店客も減少傾向にある。今後は、来店客を増やすため、職人の個展を蔵で行い、発信していきたい。
サービス業	今冬は雪が少なく、車両事故も少なかった。当該地域では少子高齢化が進む中、若者の働く場所がなく町外に出て行ってしまい、さらに１０月からは消費税アップと、この先どうなるか不安だらけである。
	昨年の冬に比べ、雪が少なかったので、顧客も遠のくことはなかった。
	今冬の経営状況は今までで最も悪く不安になった。
	今冬は雪もなく、好天に恵まれたにも拘らず、観光客は少なく感じた。
	天候に関係なく利用客は少なく、売上が大幅にダウンした。経済状況がそれほど良くないせいだと思う。しかしゴールデンウィークは既に予約で満室になり、少し安堵している。また、今後はキャッシュレス時代の到来に対応してPay Payを導入した。
	冬季に受注していた仕事があったが、その業務を任せる人材の確保に苦勞し、需要に十分応えられなかった。１月には展示会に出店した影響もあり、このまま来期の集客に繋がれるよう、非常勤も含め従業員の確保が必須である。
	設備投資をしたとしても、利用客が増加するとは思えず、現状のまま細々と営業していくことができれば良いと思っている。